

喜多方市地球温暖化対策総合ビジョン（案）への意見等と市の考え方について

No.	意見等	市の考え方
		御意見ありがとうございます。 本ビジョンは、本市の恵み豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐため、本市の目指すカーボンニュートラルが実現した将来像と、その実現のための目標及び施策の方向性を体系づけて示すものとなります。
1	運輸部門のCO2排出量について	
	①もっとも排出量の多い運輸部門のCO2排出量を、2030年までに53%削減とある。「クリーンな交通社会の構築」において、「自転車の利用促進を図る」とあるが、具体性に欠ける。	近場の移動に関しては、自動車を使用せず、自転車や徒歩で移動することで、化石燃料使用削減と、それに伴う温室効果ガス排出の削減につながります。具体的な取組としては、市広報やホームページ、研修会などでの周知啓発を図ってまいります。
	②「公共交通機関の利用促進を図る」が同じく具体性に欠ける。	個々での自動車の移動よりも、多くの人の移動が可能である公共交通機関の方が、温室効果ガス排出の削減となります。具体的な取組としては、喜多方市地域公共交通計画に基づき、公共交通の利便性向上を図ってまいります。
	③目標達成が具体的になるように数値目標を入れること。	本ビジョンは、市域全体の総合的な施策の方向性を示したものであり、運輸部門としては2030年度までに53%の削減を目標としています。本ビジョンには、個別の施策ごとの、目標値は記載しておりません。
	④すべての主要道路に、2030年までに自転車専用レーンを設ける、と明示すること。	自転車レーンの整備につきましては、交通管理者による普通自転車専用通行帯の交通規制が必要であり、主要道路の道路管理者と交通管理者による道路の構造や道路の利用状況を踏まえた検討が必要となりますので、本ビジョンでの明示は困難であります。
	⑤バスについても、利用促進の具体策を明示すること。	バス交通の利用促進に関する具体的な取組としては、喜多方市地域公共交通計画に基づき、公共交通の利便性向上を図ってまいります。
2	次世代自動車について	
	①次世代自動車について、次世代自動車から、ハイブリッド、クリーンディーゼルを削除すること。そんな補助金があったら、電気自動車に集中すべき。	御意見のとおり、本ビジョンにおいては、次世代自動車からハイブリッド車とクリーンディーゼル車を削除いたします。また、令和6年3月現在、国、県、本市において、電気自動車の新車購入に対し補助を行っております。
	②電気自動車の急速充電スタンドを市役所と支所に設けて、市民ならば誰でも無料で充電できるようにすること。すべてのコンビニやスーパー、生協に急速充電スタンドを設置させてもらうこと。	脱炭素につながる電気自動車の普及のためには、充電スタンドの普及は必要不可欠です。令和6年3月現在、道の駅喜多の郷に無料充電スタンドを設置しており、市内全体に電気自動車用充電スタンドが増えるよう、普及促進を図ってまいります。

3	太陽光発電システムの導入促進について	
	①東京都のように、すべての新築住宅に太陽光パネル設置を義務化すること。	全ての新築住宅への太陽光パネル設置義務化は困難ではありますが、太陽光発電設備への補助事業により導入を促進してまいります。
	②既存の住宅の太陽光パネル設置は補助額を増額すること。	令和5年度から、従来の喜多方市自家消費型再生可能エネルギー設備等設置費補助金に併せて、国の交付金を活用し、より補助額の高い屋根上太陽光発電等導入加速化事業（補助金）を実施しております。
4	食品ロス対策について	
	コンビニやスーパーなどで、食べられる食品の廃棄は業者名を公表するなどペナルティーを科す、あるいは子ども食堂への寄付を義務とすること。	食品廃棄事業者へのペナルティは困難であります。また、寄付行為は自発的な意思に基づく行為であり、義務ではございません。
5	ビジョン(案)策定方法について	
	札幌市が行ったように、市民の中から選んだ委員がまず意見を述べ、それに基づいてこの案を作る市民気候会議仕組みを取り入れるべきであった。市役所職員が原案を作る今のやり方では、ほとんどの市民にとってビジョンははっきり言って他人事と感じられるであろう。それで、どうして目標達成ができるだろうか？	市民の声を本ビジョンに反映させるために、公募委員を含めた喜多方市地球温暖化対策推進協議会で御意見を伺い、また、パブリックコメントを募集し、いただいた御意見を本ビジョンへ反映させてまいります。本ビジョンに掲げた施策に基づき、市民や事業者、あらゆる主体の皆様とともに、脱炭素社会に向けて取り組んでまいります。